

## 次の世代に向けて

成虫達が一生を終えても、翌年に続く飼育の楽しみが累代飼育。  
スズムシがどのように成長していくのか観察してみましょう。

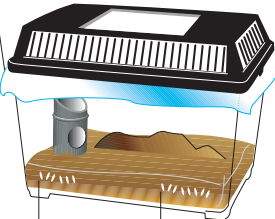
### ◆繁殖(8~10月ごろ)

オスとメスを一緒に飼育容器で飼育していると、オスは美しい鳴き声でメスを誘い、交尾をします。  
この頃のメスの食欲は旺盛で、卵を産むために動物質のエサを必要としています。  
与えるエサに動物質が少ないと共食いをしてしまいますので、エサの量や内容に注意して与えるようにしてください。

### ◆産卵

スズムシたちは卵を残してその一生を終え、死んでいきます。  
残ったマットの中には長さ3mmほどの白く長い卵がたくさん産み付けられています。  
マットはそのままの状態にして、エサ皿や死骸、糞などを取り除きます。  
そして、翌年の春に卵が孵るのを待ちます。  
卵は乾燥に強く、冬の間、土が乾いても卵はちゃんと生きています。

ガーゼやメッシュネットで  
外敵の侵入を防ぐ



マット内に産み付けられた卵  
(長さ約3mm位)

### ◆孵化までの注意

春が来る3月の始め頃、飼育容器を暖かい場所に移動させ、マットに水分を与えます。

スズムシの幼虫が孵化をする時につかまれる様に、足場になる木や隠れ家になる物を入れてあげましょう。  
木の板を立てかけておくのも良いでしょう。



共食いを防ぐ為に、カクレガを  
多く入れてあげましょう

### ◆孵化(5~6月ごろ)

初夏の頃、気温が25度位になると小さな幼虫が生まれてきます。  
スズムシはカフトムシ等と違い、卵から孵った時から体のつくりがほぼ同じで脱皮をして大きくなります。これを「不完全変態」と言います。

幼虫達は7~8回脱皮を繰り返して成長し、オスは最後の脱皮の時あの幅の広い大きな羽が作られます。

大切なお願い  
-- 昆虫は生きています --

その命が終わるまで、飼育主としての責任と愛情をもって飼育してください。  
飼育主のわがままから途中で見放したり、世話を怠らないようにしましょう。  
そのためにも、昆虫の生態について飼育主がよく理解しておくことがとても大切です。  
生き物には、それぞれに適した飼育方や生体の特徴や大切な注意が、たくさんあります。  
この小冊子を入りに、飼育書や図鑑、専門書などからも知識を深めるようにしてください。

お子様が飼育する場合でも、かならず保護者の方が生き物について理解を持ち、適正に  
毎日のお世話ができるようにサポートしてあげてください。

飼育用品は数多く販売されていますが、生き物は予測不可能な行動をする時があり、  
すべてをカバーできる物ではありません。どのような飼育をしたいのか、  
その用品が飼っている昆虫に合っているかを見極め、事故が起こる前に対応を  
してあげるようにしましょう。



Small Animal Products

発売元:株式会社 三見商会  
〒562-0035 大阪府箕面市船場東2-3-54



飼い方ブックレット⑥

# 秋の音楽隊 スズムシを飼ってみよう!

夏の盛りが過ぎると、秋の訪れを告げる虫達の季節がやってきます。  
鳴く虫の中でも、随一の音色を誇る「スズムシ」を飼育して、  
次第に長くなる日暮れの時間を家族みんなで楽しんでみませんか?



SANKO <http://www.sanko-wild.com/>

## スズムシってどんな虫?

夏から秋にかけて、陽が傾くころに「リーンリーン」と良い音色を響かせます。この美しい音はオスのスズムシだけが出すことができるもので、メスへの求愛や自分の縄張りを知らせている音なのです。自然の中では、薄暗い草むらや、ヤブの中で過ごします。成虫の寿命は1ヶ月から2ヶ月程です。

## 体の仕組み

体長はオスメス共に2cmほどの大きさで、オスは特徴的な幅の広い前羽を持っています。この羽にはやすりのようなギザギザがあり、小刻みにこすり合わせることで、あの美しい音色を出すことができます。メスは卵を産むために必要な産卵管がお尻に付いています。



スズムシのオス



スズムシのオスは前羽を広げて、羽をこすり合わせて音を出します。羽には、発音線と呼ばれる線があり、こすり合わせた音を大きく響せる仕組みになっています。

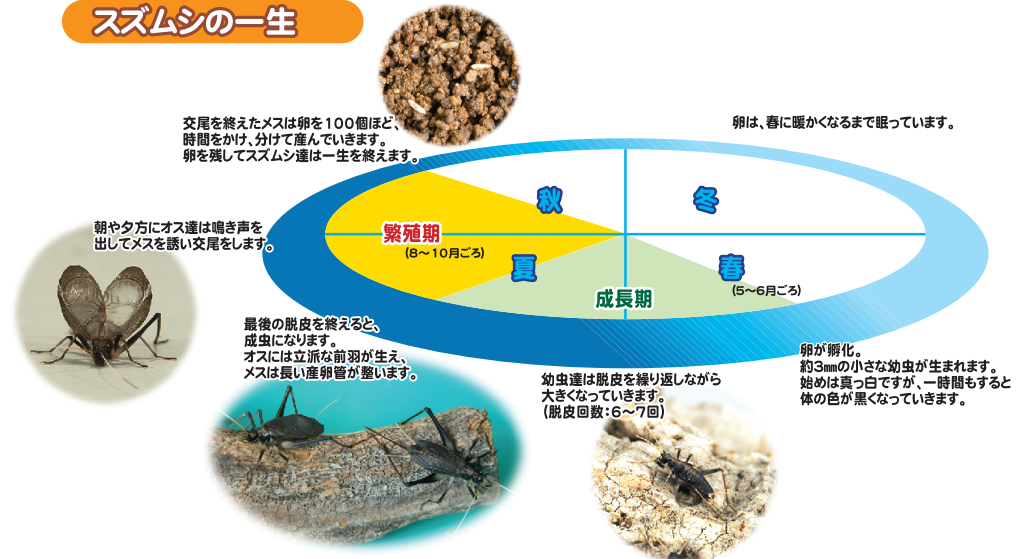


スズムシのメス



メスだけにある産卵管は卵を産むときに、土に突き刺し、適度な深さで卵を産むことができます。産卵管は筒状ではなく、松葉のように、先割れの形になっていて、その間を卵を産ませて産めるようになっています。

## スズムシの一生



## 成虫の飼育

### ●飼育環境

中に入れる虫の数にあわせた大きさの飼育容器を用意します。飼育容器にはあまりたくさんスズムシを詰め込まないようにしましょう。虫が入った飼育容器は、直射日光の当たらない、日陰で風通しの良い涼しい場所に置きます。飼育容器は市販の昆虫ケースで充分ですが、スズムシが逃げたり天敵が侵入しないようにふたがしっかりと閉められる物を選びます。



パーティションケース



クリーンケース



キュービー

### ●マット

飼育容器に土を敷き詰めます。(3~5cm) これはスズムシ達の足場や、飼育容器内の湿度を保ったり、産卵をしやすくするために重要なものです。炒った土やおが屑、赤玉土などを使う場合がありますが、市販の専用マットを使うと飼育に適した土を手軽に用意することができます。



育成マット

### ●隠れ家

スズムシは薄暗い場所を好みます。安心して休める、シェルターや物陰を用意してあげましょう。

丸太小屋



鳴き竹



### ●足場

スズムシは夜になると活発に動きます。立体的に行動できるように、コケや木切れなどで足場を作ってあげましょう。



天然ゴケ

ケースの中を箱庭のようにキレイにディスプレイして楽しんでみよう!!



### ●エサ

雑食性で、自然の中では植物や虫の死骸などを食べています。飼育下では野菜や米ぬか、煮干等を与えます。また、専用フードも売られているので、野菜の他はこれらを利用するとバランスの良いエサを手軽に与えられます。



栄養フード

特に、産卵を控えたメスなどは動物質のエサを求めて、共食いをすることがあります。カツオ粉や煮干などの動物質のエサを与えておくと、共食いをある程度、防ぐことができます。

### ●水と水分補給

スズムシはよく水を飲みます。野菜をスズムシに与えるのは栄養面からでなく、水分補給のためなのです。

ケース内の湿度調整などの役割をかねて小皿などに水を入れておきましょう。その時に、水を浸した海綿などを入れておくと、水が飲みやすくなります。

エサ皿



天然海綿



### 世話のしかた

- ・土が乾いてしまわないように、霧吹きで水分を与えます。この時、スズムシや置いてあるエサに、直接水がかからない様に注意します。
- ・エサや飲み水、ケースの中身などが腐る前に新しいものに取り替えます。死骸があれば早めに取り除いておきます。
- ・飼育容器の中は湿度が高くなるので、カビの発生や腐敗に気をつけていつも清潔に飼育ができるようにします。マットにカビが繁殖してしまった時は、新しいマットを敷き直します。

※スズムシはとても繊細な生き物です。蚊取り線香や蚊取りマット、殺虫剤などの影響がない場所で飼育するようにしてください。